

2020年度の年間の活動

COVID19の蔓延により、前年度活動のお披露目セレモニーや子どもを巻き込んだワークショップの開催はできませんでした。当初の予定より活動開始が遅れ、次年度にずれ込むものもありました。コロナ禍の思わぬ副産物として在宅ワークの増加、自粛生活の定着により、遊歩道を利用して歩いたり走ったりする住民、新たに地域に目を向ける住民がかなり増加しました。

1. 東急株式会社「みど*リンク」アクションによる整備活動

助成金80万円をいただき、遊歩道内2カ所にスツール各2台、その場所の緯度経度標高、100段階の何段目に当たるかをプリントしたカラータイルの設置を行いました。

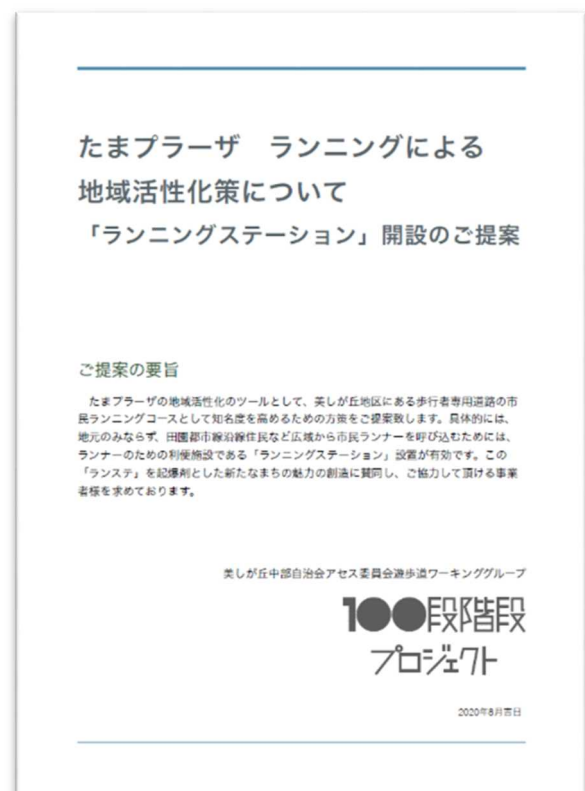
2. 団体の在り方の検討

チーム内では近隣のNPO組織の見学、ヒアリングを行い、今後の団体の在り方として、NPOにすることの是非を探りました。行政書士による勉強会も複数回行いましたが、自分たちの団体の特性を考えると、現状の任意団体のままの活動が妥当であるという結論に至りました。

3. たまプラ・ランステーション企画

<https://aoba-charity-run.jp/outline/>

夜間に遊歩道を走る人口が増えたことから、「たまプラ・ランステーション」の企画を立ち上げ、たまプラザ駅の商業施設やスポーツクラブに企画書を持ち込み、ランステーションの開設を提案しました。その後、2021年1月に催される青葉チャリティーラン～新春リモートチャレンジ～企画が発表され、これに絡めてスポーツクラブでの展開が始まることになりました。

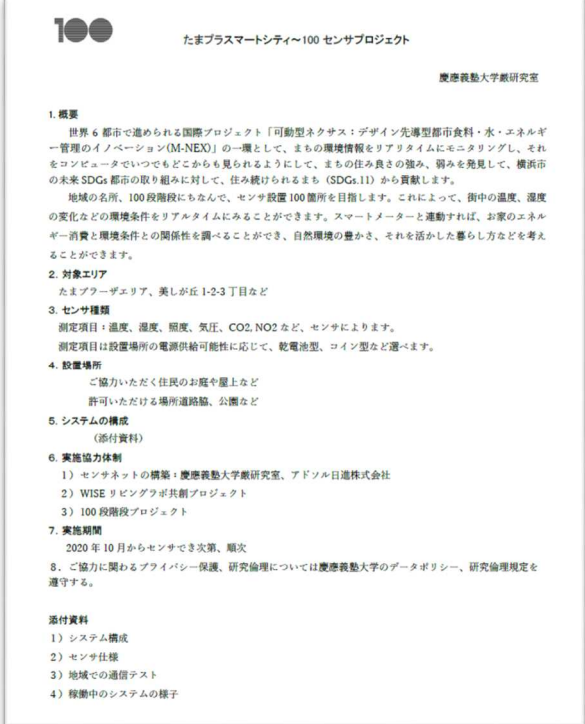


4. まちの環境調査

1) たまプラススマートシティ 100 センサプロジェクト

<https://geocps.azurewebsites.net/tamaplaza/>

慶應 SFC の協力で 10 月より環境センサー 3 台、12 月にはあらたに 6 台を地域内に設置して環境センシングを始めました。2021 年度には新しいセンサーが 100 段階プロジェクトの名にちなんで 100 個のセンサーが稼働を始めます。100 段階 PJ のホームページからもアクセスできます。



1. 概要
 世界 6 都市で進められる国際プロジェクト「可動型ネクサス：デザイン先進型都市食料・水・エネルギー管理のイノベーション(M-NEX)」の一環として、まちの環境情報をリアルタイムにモニタリングし、それをコンピュータでいつでもどこからも見られるようにして、まちの住み良さの強み、弱みを見つけて、横浜市の未来 SDGs 都市の取り組みに対して、住み続けられるまち (SDGs11) から貢献します。
 地域の名所、100 段階以外にも、センサ設置 100 箇所を目指します。これによって、街中の温度、湿度の変化などの環境条件をリアルタイムにみることができ、スマートメーターと連動すれば、お家のエネルギー消費と環境条件との関係性を調べることができ、自然環境の豊かさ、それを活かした暮らし方などを考えることができます。

2. 対象エリア
 たまプラーザエリア、美しが丘 1-2-3 丁目など

3. センサ種類
 測定項目：温度、湿度、照度、気圧、CO2、NO2 など、センサにより異なります。
 測定項目は設置場所の電源供給可能性に応じて、乾電池型、コイン型など選べます。

4. 設置場所
 ご協力いただく住民のお庭や屋上など
 許可いただける場所道路脇、公園など

5. システムの構成
 (添付資料)

6. 実施協力体制
 1) センサネットワークの構築：慶應義塾大学農研室、アドソル日進株式会社
 2) WISE リビングが共創プロジェクト
 3) 100 段階プロジェクト

7. 実施期間
 2020 年 10 月からセンサでき次第、順次

8. ご協力に関わるプライバシー保護、研究倫理については慶應義塾大学のデータポリシー、研究倫理規定を遵守する。

添付資料
 1) システム構成
 2) センサ仕様
 3) 地域での通信テスト
 4) 稼働中のシステムの様子

2) トコロジスト養成講座

環境調査の一環として 2021 年 1 月より生きもの調べを行います。日本野鳥の会より講師をお招きして「トコロジスト養成講座」と題して 1 月より連続のワークショップとまち歩きをはじめました。二つの調査の結果は来年度、再来年度の環境 MAP、生きもの MAP の制作につながっていきます。



2021 start!

100段階プロジェクト
 トコロジスト養成講座
 たまプラーザの専門家になろう！

場所の専門家、トコロジストとは、その場所のことなら何でも知っている人のこと。
 その場所の動植物はもちろん、地形や地質、歴史や名所、民俗伝承など幅広く総合的な視点でそのフィールドをとらえる「トコロ」(場所) + 「ジスト」(～する人) = 足元にこだわるその「場所の専門家」です。

たまプラーザには、緑豊かな団地、いろいろな樹種の並木道、いくつもの公園など、貴重な自然や歩くのにぴったりの遊歩道が生活圏の中にたくさんあります。この講座では、いっしょに歩いてたまプラーザの魅力に精通したトコロジスト(その場所の専門家)を養成します。その意義や楽しみ、歩き方や記録のまとめ方を具体的に紹介します。まちの中の自分のフィールドを何か決めて、その場所の専門家(トコロジスト)を目指しませんか？

皆さんの家の周りには
 散歩や通勤のときに気が
 なっている場所は
 ありますか？

講師：菊田敦只(はこだあつし)先生
 日本野鳥の会普及員 トコロジスト

予約受付開始！(各回先着20名)
 100段階プロジェクトホームページ
 問い合わせフォームへ

第1回 1月31日(日) 講義「トコロジストになろう」
 第2回 2月28日(日) 実習「生きもの地図作り」
 第3回 4月4日(日) 実習「たまプラーザまち歩きツアー」
 第4回 4月25日(日) 実習「たまプラーザまち歩きツアー」
 第5回 5月30日(日) 実習「たまプラーザまち歩きツアー」
 第6回 6月27日(日) 実習「生きもの地図仕上げ」

時間は10:00-15:00。雨天の場合はまち歩きではなく講義になります。
 主催：100段階プロジェクト / 共催：たまプラ・コネク、'街のはなし'実行委員会

5. ホームページでの情報発信拡充

<https://100dan-kaidan.org>

パソコン、アクションカメラを購入しました。これにより、リモート会議、活動情報の管理、ホームページのコンテンツとしての動画撮影と編集が可能になり内容が充実しました。インスタグラムページも立ち上げ、広く参加を募り始めました。

6. 地域通貨実証実験への参加

<http://jisedaikogai.jp/news/3585>

10月半ばからたまプラーザではじまった「まちのコイン」という地域通貨の実証実験にスポットとして参加し、催事の中で、ワークショップの実施、イベントの広報などを行っています。2月25日にはFacebook ライブでのまち歩き、3月5日にはYouTube ライブでのまちの歴史講座を開催。

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 他組織との連携強化

1) 地元商店街との連携

これまでの活動の周知が進み、活動範囲が広がっています。商店会長の紹介でスポーツクラブとの連携も図ることができ、たまプラ・ランステーションの企画書を持ちこみ、実現の道筋がみえてきました。環境測定センサーの設置への理解・協力もいただき、連携できました。地域通貨実証実験にも参加しています。

2) 企業・大学研究室・他団体との連携

- ①横浜市と東急株式会社がすすめる次世代郊外まちづくりに関連する WISE Living Lab の共創企画として「100段階プロジェクト×慶應 SFC の巖網林研究室・日進アドソルたまプラススマートシティ 100 センサプロジェクト」が始まりました。
- ②東急株式会社「みど*リンク」の助成により、新たなハード整備も行われます。(遊歩道内に4基のスツールと設置場所の緯度経度を記したタイルが3月に設置)
- ③日本野鳥の会より講師を招き、さらに深くまちを知るためのノウハウを学びます。1月より6回シリーズの「トコロジスト養成講座」、秋には地元小学校での講座、巣箱作りワークショップ、校庭と個人住宅への巣箱設置ワークショップを計画しています。

2. ホームページの充実

<https://100dan-kaidan.org>

- ①リアルなまち歩きの実施が難しくなったため、アクションカムを購入し、まち歩き動画、ラン動画の配信、人数を絞って行わざるを得ないトコロジスト養成講座の内容も順次配信しています。
- ②Instagramへの投稿を募り始めました。「たま+ナップ (たまがらすなっぷ)」ページを立ち上げまちの再発見につなげます。
- ③環境センシングの結果をホームページ上でリアルタイムに確認可能にしました。



維持管理活動支援費の使途

- NPO 法人化にむけての勉強会
 - ・ぐるっと緑道交流見学会
 - ・交通費
 - ・行政書士業務委任料
- 環境調査(トコロジスト養成講座)

- ・ トコロジスト養成講座講師料
- ・ トコロジスト関連書籍代
- ・ トコロジストパンフレット
- ・ 講師現地下見交通費
- ・ トコロジストチラシ製作料（デザイン料込）
- ・ スピンオフ企画 街の歴史講座講師料

- ホームページ拡充
 - ・ アクションカメラ購入（本体）
 - ・ ホームページ管理費
 - ・ ホームページバージョンアップ
 - ・ ホームページドメイン・サーバー使用料
 - ・ ホームページ掲載動画撮影編集（トコロジスト講座）
 - ・ ホームページ掲載動画撮影編集（歴史講座）
 - ・ 同上 オンラインライブ放送スタジオ費用

- 花の100段階
 - ・ ペットボトル花かご製作材料費・花苗など

- コーディネーターフィー

- 事務費など
 - ・ 郵送料
 - ・ プリンターインク代・用紙代など
 - ・ 行政との打ち合わせなど交通費

近い将来取り組まなければならない課題

たまプラーザは適度に都会、適度に自然も残っているという恵まれた環境にあります。デベロッパーである東急株式会社、次世代郊外まちづくり（東急×横浜市）、自治会などでまちの住環境やコミュニティについてのアンケートをこれまでに何度も実施しましたが、まちに必要なモノは何ですか？という設問に対して、答える側は、今、身近に無いものを探すのに苦労します。映画館、図書館、デマンドバス、etc…、（ひと駅、ふた駅電車に乗ればある施設、公共交通機関である路線バスは2～3分に1本という頻度で走っています）という答えが大半を占めます。現在、困っていないために切迫感や将来に向けての不安感が希薄かもしれません。

まちの課題とニーズというテーマで、継続的にいろいろな人にヒアリングを実施してい

ます。(まちづくりに関わっている人、興味の無い人、まちで商売をしている人、企業、学校教師など) サンプル数は少ないながらもこれまでの聞き取り調査によると、「まちづくり」という概念を学ばないまま大人になった現代の30代40代、さらにはその子どもたちにとっては、「まちづくり」とは道路や建築物などの開発事業関連のこと、行政や開発業者が行うものであって、自分は享受する側だと思っている、もしくは、多少理解があっても地域にどのように関わっていったら良いのかがわからない、普段からコミュニティに属していないので糸口が見つからない、「町内会」的な活動に感じられ、そういった活動はお年寄りがやるもので入りにくい、カッコよくない、などの意見があることがわかりました。

社会全体として、人とのつながりが弱体化している現代の社会傾向にコロナ禍が重なり、オンラインのバーチャル空間が一気に一般化したことによって、さらに多世代にわたる他人とのリアルな交流への意欲が薄れることが心配されます。

私たちは過去の積み重ねが現在をつくり、現在の積み重ねが未来をつくと考えていますが、未来に生きる子どもたちを育てている世代がまちづくりやコミュニティづくりに意識を向けず、なんらのアクションもしないとすれば、まちの衰退やコミュニティの弱体化は明白です。コロナ禍により住まいとかコミュニティに関連したことを考える人は増えているという感触はありますが、バーチャルなコミュニケーションに一抹の疑問を感じながらも、人は手軽で便利な方向へ流れるもの。その傾向に対する歯止めが必要であると感じています。

先人たちが地道な努力を積み重ねて作り上げてきた環境を我々は享受しているわけですが、今、我々がやっていること、ひいては現在の子育て世代がやるのが未来を生きる子どもたちへの贈り物になるはず。SDGsということばは口当たりがいいだけではダメなはず。子どもへの教育に熱心なのと同じくらいのエネルギーを環境の保全やコミュニティづくりに注ぐことが未来を生きる子どもたちに対する子育て世代の責務であることへの気づきを促す活動が必要になってきます。

幸いなことに私たちの地域はよそに比べるとまちづくり活動が盛んです。しかし、活動メンバーは限定的で、子育て世代の参加は多いとはいいきれません。保護者が子弟の教育に熱心なため、中学生くらいになると早いうちから受験体制にはいり、内申書に関係のある活動にしか関わりを持たうとしない傾向もあります。これまで、私たちは中学生の巻き込みに腐心してきましたが、今後はもう少し下の世代、小学生とその保護者にターゲットを移す必要を感じ、小学校のPTAや総合学習の時間への関与を行っていかうと考えています。コロナによる在宅勤務の形態が増えた今、PTA活動に積極的な保護者が増えているようだという明るいニュースも聞こえてきた今はひとつのチャンスだともいえます。

また、デジタルになじまない高齢者に向けてもどうコミットしていくかを忘れてはなりません。リアルなコミュニケーションが制限されている今、これ！といったアイデアがないことは大きな問題点です。地域のケアプラザとの連携もありますが、ケアプラザ自体の活動がコロナ禍により滞っている状態です。

過去には「寝に帰る街」だった郊外住宅地が、そこで「生活するまち」に変化してきた今の状況をチャンスと捉え、次のまちづくりのステージ上に子育て世代が関わりを持ち始めるためのきっかけ作りの時が来ていると感じています。